

## 7. サルモネラ食中毒の関与が疑われた一採卵鶏農場における衛生対策

大分家畜保健衛生所

○松本芙美子, 中宗徹,  
丸山信明, 阿部正八郎

【はじめに】サルモネラ属菌による食中毒は、事件数、発生患者数共に、毎年上位を占めており、その中でも、*Salmonella* Enteritidis(以下SE)による食中毒は、原因食品として鶏卵及び鶏卵加工品の関与が強く指摘されている。

今回、本年5月から8月の間に、管内飲食店営業施設において、SEを原因とする食中毒事件が発生し、保健衛生部局の実施した遡り調査により、いずれも原材料として使用された鶏卵が管内一採卵農場から提供されていたとの情報提供があったことから、当該農場の衛生検査及び指導を行ったので、その概要を報告する。

【農場の概要】採卵鶏の飼養規模 14000 羽、K種鶏場より 120 日齢で入雛、450 ~ 500 日齢で強制換羽を実施し、約 700 日齢で廃用鶏となる。1 回の導入数は 1000 ~ 2000 羽となっており、日齢の異なる鶏群が常時飼養され、鶏舎 4 棟とGPセンターを備えている。

出荷先は、S問屋の他病院、飲食店に直接販売している。

### 【材料と方法】

第1回目：細菌検査は、鶏舎4棟とGPセンターにおける31ヶ所にて、常法に従い検査を実施した。なおESサルモネラ寒天培地Ⅱにて菌検出を実施。またSE及びO9スクリーングをおこなう目的で採血も同時に行い、ひな白痢菌急速診断用菌液を用いた平板急速凝集反応(以下、RST)を実施。分離された菌については、サルモネラ血清型別を実施した。

第2回目：第1回目の検査で SEが分離された鶏舎及びRST陽性鶏群を中心に鶏卵、クロアカスワブを採取し細菌分離検査及び同鶏群のRSTも実施。

第3回目：淘汰消毒後の鶏舎について拭き取り検査を実施し、常法により菌分離を行った。これまでと同様に、採血後RST実施。

### 【結果】

第1回目：分離されたサルモネラについて、血清型別検査を実施した結果、鶏舎1棟の通路床からSEが検出。スクリーング検査のRST陽性率は15.0%だった。

第2回目：いずれの検体からもサルモネラは不検出。RST検査陽性率は30.0%。

第3回目：鶏舎2棟の各コンテナからSEが検出され、RST検査陽性率は25.7%。

【まとめ及び考察】本事例は、保健衛生部からの情報を基に、採卵農場のサルモネラ分離及び、その後の衛生指導を実施したものである。今回SEの侵入経路は検索中であるが、コンテナから検出されたことで、SEの感染拡大にコンテナが関与していることが示唆された。今後は強制換羽を止め、廃鶏後の鶏舎及びGPの徹底的な消毒。定期的な飼料の消毒を行うよう指導した。近年、消費者は食品に対する安全性に強い関心をしめしており、鶏卵を介した食中毒の発生は養鶏産業の振興に大きなダメージを与えることから、SEに汚染されない農場管理を今後も指導していきたいと考えている。